

講演情報

シンポジウム

放射線分科会 » シンポジウム (放射線分科会)

放射線分科会

シンポジウム

放射線治療におけるチーム医療

2021年11月4日(木) 15:00 ~ 17:00 第5会場 (奈良県コンベンションセンター 2階 203)

座長: 長谷川 正俊 (奈良県立医科大学 放射線腫瘍医学講座 教授)

[10521] 診療放射線技師の視点-臨床から研究まで-

°太田 誠¹, 大北 哲也¹, 東末 優¹, 日野 千香子¹, 高屋 久志¹, 尾方 俊至², 梶川 智博², 芦田 理恵³, 相部 則博²

(1.京都府立医科大学附属病院 医療技術部放射線技術課, 2.京都府立医科大学 放射線診断治療学講座, 3.京都府立医科大学附属病院 看護部)



放射線治療の提供体制は、病院ごとに異なるが、放射線腫瘍医を中心とした多職種が連携し医療サービスが提供されている。当院では、放射線腫瘍医、看護師、医学物理士、診療放射線技師、メディカルクラークが業務に携わっている。円滑な連携のための情報共有の場として、全職種の担当者（医師は原則全員）が集まるカンファレンスを毎朝行っている（現状はコロナの影響もあるため、リモートを利用し、工夫しながらの開催としている）。主に、下記の項目が検討される。

- ・全体に係る連絡事項（装置修理や医療安全に関する周知事項）
- ・当日締め切りを迎える治療計画のレビューと承認
- ・当日の新症例の確認と懸案提示および担当医割り振り
- ・前日の新患への対応確認と検討（方針確認、必要に応じて治療装置の割り振り）

これとは別に、毎月、懸案事項を議論し標準化するためのミーティングを開催している。このミーティングには、各職種の代表者数名が集まり議論や取り決めを行っている。当院の特徴として、多職種で議論するハードルは比較的低く、情報共有の頻度も多いという特徴があると考えられる。言い換えるとお互いに相手の領域に一步踏み込みやすいということである。

当院では、診療放射線技師は、小児症例や不安の強い患者へのプリパレーション、CTシミュレーション、患者個別検証などのQA/QCや位置照合を含む照射業務に携わっており、その中で、放射線腫瘍医、看護師や医学物理士と連携を行っている。今回のシンポジウムでは、その連携の中で挙げた課題と対応の実例を診療放射線技師の視点を交え、いくつか紹介したい。具体的には、頭皮照射にIMRTを適応する際のボース配置再現性の向上に関する要望（放射線腫瘍医から技師への要望とその対応）、バイトブロック使用時の嘔吐反射へ配慮した提案（看護師から技師への提案）、マスク作成に難渋する事多い小児症例に対して、3Dプリンティング技術を適応する提案と検証（技師と物理士から医師への提案）、患者体型や状態の変化に対する対応（全職種での情報共有）、固定具を直接装着可能な陽子線治療用レンジシフトベッド使用時の線量精度検証（技師と物理士の協働）など、時間の許す限り共有したい。